



夢をかたちに

2008~ 2009年度
国際ローターテーマ
夢をかたちに」

第2820地区 Weekly Bulletin

HITACHI SOUTH ROTARY CLUB

例会場 要害クラブ TEL 0294-36-2020
例会日 毎週火曜日 12:00~ 13:00
事務所 日立市末広町 1-1-3 国分協同組合内
TEL 0294-36-5074 FAX 0294-37-2176
mail rotaso@iplus.jp
http://www.xyj.co.jp/hitachi/south-rc/



会長; 星 勝治 副会長; 木本 貴一
幹事; 鹿志村 高道 会報委員; 小林 英典 鈴木 幸一 高島 章行

9 平成 20年 9月 2日 (火) 本日のプログラム: 卓話 新世代奉仕委員会

次回予告 平成 20年 9月 9日(火) プログラム: 卓話 出席委員会

例会報告

9月2日(火) 12:00 開会
弓野 博司 SAA 委員長



幹事報告

鹿志村 高道 幹事



会長の時間

星 勝治 会長



8月31日に土浦において会長幹事会に出席いたしました。

2820地区の会員増強について会員数が4月1日付で60名の減でしたが4月末時点で元に戻しました。

会員の皆さんに一人でも多くの友人を誘っていただけロータリークラブに入会をお願い致します。

本日は外部卓話に作山さんをお招きしておりますので理論と実行の作山さんに2820地区の方針の説明をお願い致します。私からは会長の時間に2820地区の方針を説明いたします。

それでは作山さんにバトンタッチしたいと思います。

作山さん卓話宜しくお願い致します。



本日は作山さんようこそいらっしゃいました。有難うございます。

さて、本日本年度3回目の理事会がございました。下記の2点が承認されました。

- ・10月8日~14日当クラブと友好クラブのワイキキロータリークラブ訪問に伴い10月14日の例会を夜間例会にする。
- ・11月2日NPO法人日立ふきのとうの会主催の「ふきのとう祭り」の補助と当クラブより10名程度の手伝いをする。

以上が本日の理事会で承認されました。



9月の誕生・結婚祝

川崎親睦委員長

結婚祝 9月3日 木本 貴一 会員

9月の誕生祝いの方はおりません。
結婚祝いは木本幹事です。おめでとうございます。



出席報告

鈴木 幸一 委員長

会員数	出席	欠席	出席率	訂正	免除
35名	17名	18名	51.52%	66.67%	3名



ニコニコBOX 白石 満義 委員長

作山様ようこそ当クラブにおいで下さり、
ありがとうございます。

星 勝治 鹿志村高道 木本 貴一

作山様ようこそいらっしやいました。卓話宜しく。

小山 高一 信太 克己 岩崎 敬次

石川 國博 弓野 博司 高島 章行

山本 忠安 大森 孝之 川崎 健輔

須田 晃

8月分ニコニコ賞発表します。

白石 満義

卓話宜しくをお願いします。

小澤 興 武藤 真一 宮本 尚彦



本日も多くの方からニコニコBOXへのご協力誠にありがとうございました



本日計 23,000円

累計額 255,000円

本日のプログラム：新世代奉仕委員会

新世代奉仕委員長 須田 晃



本日は新世代外部卓話として高萩RCの作山吉永さんにお越しいただいております。私と作山さんの関係について一言申し上げますと日立RC中山達之助さんが分区代理の時、第一分区の会長幹事7クラブ14人が中山元分区代理を囲んで年一回各クラブ持ち回りで7月7日に「たなばた会」と称して同窓会を開いてきました。その同期のメンバーですので10数年に亘ってお付き合いを頂いております。ここで経歴をご紹介しますと1949年高萩生まれ、県立日立一高から法政大学経済学部に進学。大学入学と同時に少林寺拳法部入部。四年生時主将。卒業後、香川県の総本山少林寺に修行僧として入山、開祖宗道臣師に師事。1977年青少年育成を生涯の仕事にする事を決意し、郷里高萩に戻り少林寺茨城高萩道院を設立。1990年より毎年一回継続してアメリカ、カリフォルニア州エサレン研究所(深層意識研究所)で「身体の動きと意識」についての集中講義を行っている。2004年単行本

「可能性の種子たち・魂魄(こころ)を育てる」を出版。ロータリー歴は1991年7月高萩RC入会、1999~2002年地区国際奉仕青少年交換委員長、2003~04高萩RC会長、2004~05地区新世代奉仕ライラ副委員長、2005.5~6月GSEチームリーダーとして南イタリア2120地区訪問、2005~06地区職業奉仕総括委員長、2005~06地区新世代奉仕青少年育成副委員長、2006~08地区職業奉仕委員長、2008~09地区クラブ奉仕委員長とロータリアンとしても人格的にも優れ、将来はガバナーになって欲しい方とっております。

高萩RC 作山 吉永 地区クラブ奉仕委員長



皆さんこんにちは。過分なご紹介ありがとうございました。私は少林寺拳法を30年前から高萩で指導をしております。元々家業がありまして山で木を植え、切って売るといのが商売なのですがこの30年くらいさっぱりだめな商売で、子供の頃は祖父にお前は山を守っていればそれで左うちわだからな、と言われておりましたがとんでもない話で時代というのは色々変遷するものだなとつくづく思います。私は趣味が高じまして少林寺拳法の世界に入りまして結果的にこれを通じて外国との交流もでき、少林寺拳法の道場と多少の英語を教える事で生活しております。ここ2年くらいは材木の需要がよくなりまして少し木を売りました。でもまだまだ日本の製材業はだめでしょう。あと20年くらい必要でしょう。長いスパンでものを考える必要だとつくづく思いますが多分自分の性格がそういったところからできてきたのかなと思います。というのは何十年間のスパンでものを考えなければなりませんね。今日の明日の話ではないのです。そうすると家もそうですし家族もそうですし、子供のころというものは培われていくのかなと感じます。こどもというより青少年を育成する原点になるようなものなんだろうと思います。やはり小さい頃に育った環境というものがあります。これは色々あり家の環境が一番身近ですが社会環境、社会情勢の環境、学校教育での環境これはおそらく何を教わるかではなくどんな人達に教わったかという先生達の質の問題もあるでしょう。そういうものの中でこどもたちの心というのは培われていくのだらうと思います。今日は新世代についての卓話ですが、少林寺拳法というのは禅宗に根ざしております。元々は禅の坊主の修行法でした。少林寺というのは中国にある

お寺で達磨が住んだ寺といわれております。達磨は禅宗の開祖でありインド人です。インドから中国にやってきて仏教を伝えた、その時にはまだ禅という言葉はありませんでした。けれども達磨が教えたものはあとから禅として伝わるようになりました。ですから日本の禅宗・道元の開いた曹洞宗、栄西の開いた臨済宗、それから京都に黄檗宗というのがありますが万福寺という素晴らしい中国風のお寺があります。虚無僧も禅宗の一派といわれております。それら禅はすべて中国の少林寺に戻るのです。禅宗は元々仏教で、開祖は仏陀ですが82歳でなくなる時故郷の近くに帰ってきて木陰で「木陰は身内のように涼しい」と言ったそうです。仏陀は出家する時家族を捨て40年の長きに渡り放浪、説法しこどもにラーフラ(障害物)という名をつけた位なのに人間にとってもっとも大事なものは身内・家族のような親しい人間関係なのだというのが仏教の教えなのだと思われます。親しい顔に何人も何人も会う、それがロータリーの本質だと思います。ロータリーによって出会いがある。新しい人に出会った。その人と共に人生を送る。このことがロータリーライフなんだと信じて疑いません。友達を作る、その友達がただやあやあと言うだけではなくもっと話をしてもっと出会う機会を増やす事がひとつの活動だと思います。おそらく100年前のポールハリスがそうだったのではないかと思います。みんなであってただ飲み食いしてるだけでは無く、なにかをしようではないかとなつてのではないのでしょうか？それがシカゴで始めに公衆トイレを作ったという有名な話がありますがその前に牧師さんに馬をあげたのが最初の事業だったそうです。奉仕をかたく考えずに我々のなかにその様な種があるんだろうと思います。親睦活動や委員会活動を通じてその様な種をどうやって育てるかというお話だと思います。少し宣伝めいて恐縮ですが日本武道館が武道の取り纏めをしております。武道は俺が俺がとなりがちですがここ30年くらいで日本武道館を中心にまとまる様になってきました。そして文部科学省に武道を教育に生かそうではないかと提案し文科省は取り上げました。中学校で武道を正課にするという決定を致しまして4年後に施行されます。武道館に集う代表的な武道は9団体あります。少林寺拳法も入りました。その武道館から本がでまして私にその月間誌に文章を書けと命ぜられ2年ほど書いたものが一冊の本となりました。冒頭紹介されましたが内容としては教育論を書いたつもりです。論というよりも実践を経て子供達にはこういうものが必要ではなからうかというものを書きました。題名も「可能性の種子たち」としました。子供達は可能性の種子である。非常に大きな可能性あるいは沢山の可能性の種を持った存在である。問題は種をどう芽吹かせるか？ロータリーも同じでしょうが人間が可能性をもっていて、その可能性をどう花開かせるか？こういったことが教育であり環境の整備が必要と感じます。いい環境を我々がどうやって作るかというのが社会の使命ではないかと思います。まずは家庭環境です。しかし家庭環境といっても親そのものが戦後世代です。昔は道徳教育が人間教育でした。

元々は儒教教育です。しかし戦後殆んど儒教教育はなされなくなりました。人間教育がなされなくなって現在の教育はだめになりました。もっと前に気付けばよかったのですが前の世代の人たちの遺産もあと30年くらいで無くなるでしょうし、我々の世代が何とかしなければならぬと思います。ここからここに伝わるもの、知識では残念ながら人は動きません。人は論理ではなく情やこころで動くものです。高萩で少林寺拳法の道院を作ったとき子供しか入ってきませんでした。子供を教えるにも経験がありませんしどうやって教えたらよいのか毎日悩みました。道院日誌というのがありますが毎日また怒鳴ってしまいました。また頭にきてしまった。その様な時にこの様な経験を致しました。こどもが父親と共に道院に見学しにきました。お父さん最初は見ていましたが大丈夫と思ったのかいなくなりました。その子供がお父さんがいなくなったと分かった途端吐いてしまいました。その位こどもの心というのは体と一体なのです。その時廻りの子供たちはわっと逃げました。3年くらい修行しているのに情けないなと思い、私は心に決めよしとそのげろを両手で掬いました。「ごみ箱もってこい」と言い掬ってはゴミ箱に入れました。すると廻りの子供たちは一瞬沈黙いたしました。あれだけ騒いでいた子供たちがびっくりしたんでしょうね。げろを掬うなんていう行為はめったにある事ではないでしょうが3回目掬った時に、ある子供が僕もやるといいげろを掬いました。僕もやる僕もやるとお祭り騒ぎになってしまいました。私もびっくりしてしまうと共に涙が出てきました。3年教えてきて始めて繋がったなと実感いたしました。論理でなく心が繋がる事が一番大事なことだと思いました。その後良く考えますと中学時代外便所の清掃中枯葉が便器につまり汚いと思っていた時ある先生がきて何が汚いんだと言って素手で便器の中の葉を取ったことがありびっくりした事がありました。それが20年後に効いてきたのではないかと思います。心の教育は10年後20年後に効いてくるのが大事だと思われます。その人自身がどのような種を持っているのか？そのためには子供に接してもらふ必要があります。子供と一緒に何かをする場面が必要なのです。これが青少年教育ロータリーで言うなら新世代育成教育ではないのかと思います。新世代育成は長い目をもって5年10年20年後に効果があるようなものを持って行くべきものではないかと思います。ただ種まきをする場面は必要です。クラブの中で種まきの場を持っていただいて、あの時あの人面白い事を言っていたなとこころの中にもっていただければあとで効いてくると思いますので、是非今月新世代月間ですのでこころの種まきをなさる様にお願いたします。

今月のラッキースマイル賞



ブラックベリーが大豊作で
ジャム作りに追われています。
宮本会員

